

令和3年度第1回鹿児島市交通事業経営審議会

日時	令和3年度第1回鹿児島市交通事業経営審議会	会場	交通局3階 第2会議室
出席者	古川会長、小山委員（副会長）、江口委員、碓山委員、石田委員、東川委員、永山委員、前田委員（8名）		
市出席者	交通事業管理者、交通局次長、総合企画課長、総務課長、経理課長、電車事業課長、バス事業課長		
会次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員及び事務局紹介 3 交通局長の挨拶 4 会長及び副会長の選任 5 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度鹿児島市交通事業特別会計予算の概要 (2) 鹿児島市交通事業経営計画の実施状況について（令和2年度実績） (3) 令和2年度市電・市バス乗車実績等 (4) 令和2年度の主なトピックス（令和2年10月以降） 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> 交通事業経営計画見直しの骨子（案）について 7 閉会 		

会次第4 会長及び副会長の選任

発言者等	協議事項・質疑・回答等
事務局	会次第「4. 会長及び副会長の選任」であるが、資料②の審議会規定をご覧いただきたい。第4条により会長・副会長は委員の互選により、決定することとなっており、自薦、他薦問わず、適任と思われる方がおられたら、ご推薦いただけないか。
委員	事務局の考えはないのか。あればお聞かせ願いたい。
事務局	事務局としては、会長はこれまで会長を務めていただいた古川委員に、また副会長もこれまで副会長を務めていただいた小山委員にお願いしてはどうかと考えているが、いかがか。
委員	異議なし
事務局	異議なし、とのことであるので、会長を古川委員、副会長を小山委員に決定する。

会次第5-(1) 令和3年度鹿児島市交通事業特別会計予算の概要

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	令和3年度予算策定にあたり、コロナの影響を見込んだ部分があると思うが、具体的に教えてほしい。
事務局	<p>収入面については、令和2年度6月から11月の実績を基に、令和2年度当初予算の約3割減を見込んでいます。バスについては4月1日からの路線移譲に伴う減額分も見込んでいます。</p> <p>費用面については、感染症対策として車両消毒やマスク等の購入費用を両事業合わせて約520万計上しています。これについては、新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金を活用する予定である。</p> <p>また、公共交通の安全を維持するための必要経費については、例年どおり見込んでいます。</p>

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	特別減収対策企業債について教えてほしい。
事務局	公営企業における新型コロナウイルス感染症に伴う減収による資金不足について、令和2年度から発行が可能となった地方債である。 既に令和2年度に3億3000万借り入れている。
委員	経営健全化の指標として資金不足比率があるが、何%となっているか。
事務局	特別減収対策企業債は資金不足比率の算定に含まなくてよいため、資金不足比率は0パーセントである。
委員	VVVF 制御装置更新事業の更新については、今後も続く事業であるのか。
事務局	VVVF 制御装置を設置している車両は55両のうち26両であるが、更新が必要な30年以上経過したものは、そのうちの9両であり、残りの17両については新しい低床車両であるため、今のところ予定はない。

会次第 5-(2) 鹿児島市交通事業経営計画の実施状況について（令和2年度実績）

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	市バスの路線移譲によって市民からの意見や苦情などはあったか。
事務局	1年間で約40件のご意見等があった。内容としては、移譲路線に関する確認が主であったが、低床バスの減少や免許返納割引制度が使えなくなったなどサービスに関する苦情も一部あった。それらの意見は民間事業者に伝えている。
委員	民間事業者は、コロナ禍の厳しい状態における3年間の路線維持について、どのような考えか。
事務局	民間事業者もコロナ禍で非常に厳しいと伺っており、現在のところ減便について具体的な話はないが、コロナ禍という特別な状況下であるため、相談があれば検討せざるを得ない。
委員	路線移譲により、10名が市長部局等へ出向したとのことだが、人選の仕方や本人の意向は踏まえたのか。
事務局	意向調査や年齢構成等を考慮し、市長部局への出向、局内の配置換を行った。
委員	経営計画の実施状況の中で、「安全運行の推進」のうち、運輸安全マネジメントの推進や乗務員の人材育成についてはどのようなことを行っているか。
事務局	年3回の運輸安全マネジメント委員会と、各事業課でも年4、5回研修を行い、安全に対する意識を向上させている。
委員	鹿児島市の全国交通系 IC カードの導入については、費用の面で難しいのか。県外からの観光客の利便性が高まるように前向きに検討してほしい。
事務局	全国交通系 IC カードに先駆けてラピカを導入し、積み増し時のプレミアムなど独自のサービスもあるため、既存のラピカシステムを維持しながら、全国交通系 IC カードを導入する必要がある。その場合、約10億円を超える費用がかかり、厳しい経営状況から難しい。クレジットカード決済やQRコード決済などの新たな決済システム等も研究し、導入に向けて検討する。 県外からの観光客に対する対策としては、キャッシュレスで購入できるスマホ一日乗車券やデポジット不要のおもてなし観光ラピカの導入を行った。
委員	オープンデータの提供で経路検索事業者へデータを提供したとあるが、具体的にどのようなことを行ったか。Google 以外の経路検索サイトにも反映されているのか。
事務局	データを提供したことにより、Google マップで検索すると、市バスの経路や電車とバスを乗り継いでいく経路の出発時間や乗り換え停留所、その料金等が表示されるようになった。また、地図上にあるバス停を押すとそのバス停を通るバスの時刻も表示されるようになった。直接提供したわけではないが、Apple のマップでも同様に表示されている。

委員	YouTubeによる動画の投稿は有効な手段。ラピカの導入経緯や全国系ICカードの導入検討の現状について動画で紹介したらどうか。また、車載カメラによる撮影を行ってはどうか。
事務局	検討する。

会次第5-(3) 令和2年度市電・市バス乗車実績等

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	令和2年度市電・市バスの乗車実績で市電のほうが落ち込みが大きい理由はなにか。
事務局	電車はバスより県外観光客やインバウンドの利用割合が多い。緊急事態宣言の影響等により県境を越えた外出自粛やインバウンドの消滅がバスより電車に強く影響したと考える。
委員	定期券と定期券以外の乗車人員の実績に違いはあるのか。
事務局	電車、バスの乗客数はともに定期利用より定期外利用の減少率が高い。通勤、通学以外の高齢者等が不要不急の外出を控えたこと等が影響していると考え。時間帯別の利用を見ても、昼間と夜間の時間帯が大きく減少している。
委員	徐々に回復傾向が見られてるようだが、令和3年度の予算に関してはこのデータが出る前に作成したために、より厳しい見込みとなっているのか。
事務局	予算については令和2年12月時点で作成しており、6月から11月までの実績を基に作成しているため、厳しめの予算となっている。
委員	令和3年4月、5月については前年度に比べて回復しているのか
事務局	前年4、5月は最初の緊急事態宣言下にあり大きく落ち込んでいたため、前年同月と比べると回復しているが、前々年度と比べるとまだ厳しい状況である。

会次第5-4 令和2年度の主なトピックス（令和2年10月以降）

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	郡元電停交差点軌道改良事業について教えてほしい。
事務局	以前はアスファルトで、でこぼこがひどかったため、コンクリートにすることで振動が少なくなり、改善された。

会次第6 交通事業経営計画見直しの骨子（案）について

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	「定期観光バスの見直し」をあげているが、シティビュー、アイランドビューの見直しはしないのか。
事務局	シティビュー、アイランドビューについては、市の観光部署からの委託であるため、ダイヤ等についてはコロナ禍の状況をお伝えして、協議をして決めていくこととなる。
委員	経営計画の中の「車両部品等の売却」についてであるが、令和3年度の予算に営業外収益として計上されているのか。
事務局	手数料に見合った収益を予算に含めている。
委員	「利用者への啓発」についてだが、新型コロナウイルスの感染防止の呼びかけとして、市バスの中に「黙乗」という形のポスター啓発や車内アナウンスに鹿児島弁を使うようなアイデアを考えてほしい。
事務局	バスの回送表示に「車内では マスク着用 咳エチケット ご協力を」という表示を行い、周知広報を行っている。ご提案については、検討したい。

委員	計画では収支均衡を目指すと思うが、コロナが収束しても、以前の状態に戻ることは難しいと考えるが、現時点で検討されていることなどはあるか。
事務局	<p>路線移譲と運転士の異動にタイムラグがあり、バス運転士に過員が生じているため、これまで委託で行っていた業務を期間限定で直営化した。また、利用が減少していたイオン鴨池店の臨時の乗車券発売所を今月末で閉鎖することとした。このほか、ゆーゆーフェスタなどのイベント開催を中止するなど、事業峻別に取り組んでいる。</p> <p>また、新しい生活様式の下での利用状況に合わせた市電・市バスの減便等を行い、財政見通しのシミュレーションの中で収支均衡が難しい場合は、さらなるサービスの見直し等についても検討せざるを得ないと考えている。増収対策については、新たにスマホの24時間乗車券の導入や新たな広告媒体の設定など、様々な施策を行っていききたい。</p> <p>事業全般について、コロナ禍収束後の新たな社会を見据えたものにしていききたいと考える。</p>

その他

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	路線移譲に伴う運転手の余剰人員についてであるが、数年をかけて人員の均衡がとれるような形で進めるとともに、運転手の方たちの負担とならないよう柔軟に対応してほしい。